

企画講座

折紙講座「干支 亥」を折る

講師 二階堂 黎子 日本折紙協会師範・中日文化センター講師・おりがみほーむ「ハビレリア」主宰

古来より日本の人々に山の神として尊敬されていたイノシシ。多産であり、縄文時代から豊穡の象徴としても重視されていました。「勇氣」と「冒険」がシンボルとされるイノシシ。久しぶりの二階堂先生の折紙講座は恒例の「干支を折る」、今回は「亥」。12年前の「亥」とは趣を変えて、亥の親子が境内で蹴鞠を楽しむとてもかわいい様子を表現、それに挑戦していただきます。オリジナルの「亥」の色紙を飾って、新年を迎えましょう。(ハサミ・ボンド・ピンセットなどをお持ちください)

日時 12月6日(木) 13:30～15:30 参加費 会員 1,700円 ビジター 2,200円(材料費含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 25名

明治維新とは何だったのか

講師 岡野 友彦 皇學館大学文学部長

今年平成30年(2018)は、明治元年(1868)からちょうど150年ということで、政府公認のロゴまで作られ、全国各地で様々な催しが開かれました。しかし最も肝心な、明治維新はそもそも何のための改革だったのかという問題については曖昧なままで、大河ドラマ「せごどん」でも、これをナポレオンの「革命」になぞらえるかの如き描き方が為されています。

しかし、明治維新は決して自由と民主主義を求めた市民革命などではありません。本講座では、明治維新の真の目的について、岡野先生のご専門である中世、ことに戦国時代のポルトガル・スペイン人來航から始まる「ウエスタンインパクト」＝「アジアの植民地化」への対応という視点から考え直していきたいと思ひます。江戸幕府の採った鎖国政策と、明治政府の採った文明開化政策は、実は同じ目的のためのものだったのです。

日時 12月10日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 800円 ビジター 1,300円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

魔法の吸水タオルを生み出した男

講師 浅野 雅己 浅野燃糸株式会社 代表取締役社長

皆さんは「エアーかおる」というタオルをご存知ですか？

その実演販売を見た人の多くが買ってしまおうという魔法のタオル。このタオルを開発したのは「浅野燃糸株式会社」の社長です。燃糸とは糸に熱りをかけること。1本から複数本の糸を引き揃え、燃糸機と呼ばれる機械でひねりを加える(燃る)ことで、糸に新たな強度をつける作業のことで。浅野社長は新しく開発された糸をもとに、その糸を最大限に生かす燃糸方法を研究開発され、素晴らしい吸水性を持つ糸を誕生させました。それはまるで水をストローで吸い上げのようにタオルが水分を吸ってゆくのです。

そして津市にある「おぼろタオル株式会社」の協力を得て「エアーかおる」が誕生しました。

今回浅野社長を講師に迎え、開発にまつわる秘話、燃糸技術について、また何度失敗してもあきらめずに研究・努力されたお話などをお伺いしながら、ポジティブ思考の大切さを教わります。

日時 12月12日(水) 13:30～15:00 参加費 会員 1,100円 ビジター 1,600円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

正月の寄せ植え

講師 山路 元彦 ヤマジ園芸代表取締役・グリーンアドバイザー

前回「秋の寄せ植え」が好評でしたので、今回は新しい年を迎えるのにふさわしい寄せ植えを、ヤマジ園芸の山路社長にご指導いただきます。松葉牡丹、ビオラ、南天、ミニクラメンなど5～6点の縁起の良い、彩りの美しい植物を寄せ植えします。寄せ植えの基本、土・肥料から植物の栽培特性・育て方はもちろん、庭のお花のお手入れ方法などもお聞きしましょう。年末の忙しい時期で心も体も疲れ気味になりがちですが、植物や土に触れて癒されませんか？

寄せ植え初心者の方も大歓迎、お気軽に参加してください。(園芸用手袋、エプロン、タオルなどをお持ちください)

※材料準備の都合により、12/12に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。また、使用する花材は仕入れの状況により変更される場合があります。

日時 12月19日(水) 13:30～15:30 参加費 会員 3,500円 ビジター 4,000円(材料費含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

お正月の花

講師 爪橋 静香 舞台装飾・空間美術・茶道・華道・和裁・陶芸教室主宰

年があらたまるというのは、理屈ではなく心が華やくものです。今年は特に平成の元号があと数か月で変わる大切な節目のお正月です。一年の罪穢れを大晦日に洗い流し、清らかな気持ちで新年を迎えたいものです。おめでたい花を飾って歳神様をお迎えしましょう。

きっと良いことがある年になることでしょう。(懐紙・花包み・花切り鉋・タオルなどをお持ちください)

日時 12月23日(日) 18:30～20:00 参加費 会員 1,700円 ビジター 2,200円(茶菓代・花材費含む)
場所 五十鈴塾左王舎 定員 20名

松浦武四郎の生き方

講師 山本 命 松浦武四郎記念館主任学芸員

春に嵐の松本潤主演でドラマが放送される松浦武四郎は今の松阪市小野江町に生まれました。生家は伊勢街道沿にあり庄屋であったと伝わります。幼少の頃から伊勢参りの旅人を目の当たりにし、旅への憧れを膨らませ若くして全国を回りました。

武四郎というと北海道の名付け親としての面がクロウズアップされますが、それだけの人ではなかったのです。膨大な紀行文を書く、北海道の緻密な地図を作製する、絵を描く、漫画を描く、篆刻をする、明治の元勳たちと交流する、骨董品好き、大台ヶ原を開拓するなどなど、普通の人の何倍もの人生を生きました。さて、その性格は？ 武四郎研究第一人者の山本学芸員のお話は破天荒な武四郎のエピソードに満ち満ちています。

日時 1月24日(木) 13:30～15:00 参加費 会員 800円 ビジター 1,300円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

はじめての祭祀舞

講師 千種 清美 祭祀舞継承「美鈴の会」同人・文筆家

祭祀舞とは、神社などで披露される舞のこと。千早に緋袴を身に付けた巫女が厳かに舞う姿は女性にとって憧れです。祭祀舞は神に捧げるために作舞された日本の伝統文化。格式が高いと思いがちですが、楽の音色に合わせて、ゆったりと身体を動かすため、性別や年齢に関係なく舞うことができます。自然と体幹が鍛えられ、姿勢が良くなる上、清々しい気持ちにもなるのも神に捧げる舞だからでしょう。月に一度、心も体もフレッシュいたしましょう。講師は伊勢神宮元楽長の中口幸七先生に指導を受けている祭祀舞継承「美鈴の会」同人の千種清美さん。「日本人と舞」についての講義と、神社本庁制定祭祀舞「豊楽舞」を習ってみませんか。(動きやすい服装で靴下をお持ちください)

日時 はじめての祭祀舞⑧ 1月28日(月) 18:30～20:00
はじめての祭祀舞⑨ 2月12日(火) 18:30～20:00
参加費 各回 会員 800円 ビジター 1,300円(※申し込みは1回ずつ受け付けます。)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

大祓について

講師 音羽 悟 神宮司庁広報室広報課課長

大祓詞本文には、皇御孫命(天照大御神の皇孫という意味、つまり天皇を表します)の統治下なる日本国内において、万民の過ち犯したと思われる様々な罪をことごとく祓い消滅させることが記されています。天皇垂範のもと、罪を払拭しようとする徹底した意図が大祓の祝詞に込められているのです。ここにいう罪とは、悪行だけではなく、人の凶悪な行為によってもたらされると信じた災気、もしくは行為には関係なく自然発生的に生ずる災難も指しています。これらは必然的に人の心身に災禍を及ぼす不祥のものと古代人は考えたのです。また大祓詞には、人間が社会生活を営むうえで、必要最低限守らなければならない規範、つまり道徳の教えもあります。天つ罪や国つ罪、さらに高つ神の災い、高つ鳥の災いは何を意味するのでしょうか。今回はこれらの真意の解明に迫ります。(質問タイムもありますので、疑問に思っていることなどを聞いてみましょう)

日時 2月5日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 800円 ビジター 1,300円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

「漢方」の不思議な世界

講師 栗田 淳子 漢方薬局ユクル 薬剤師

2000年以上と言われる漢方の歴史。先人が遺した漢方処方や養生法が、今も私たちの心や体の不調を治してくれています。現代医学は、解剖学や生理学から体を捉えて、病巣を排除する方向ですが、漢方医学は、全身を繋がりのある有機体として捉えて、いろいろな視点から病気の原因を探り、体のバランスを平常に戻すことで治療に活かします。治療に使われる漢方薬は、植物・きのこ類・動物性もの・鉱物など多彩な「生薬」で構成されています。それぞれの生薬の力、柔軟な働きをする漢方処方、「気血水」のシンプルで明快な考え、臟腑経絡の深い意味などの不思議をお話いただきます。

日時 2月6日(水) 13:30～15:00 参加費 会員 800円 ビジター 1,300円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

漢字の旅「豕・豚・家」～高先生に学ぶ漢字は面白い～

講師 高 潤生 書道篆刻家・現代印作家

漢字はいつどのようにして生まれたのでしょうか。今、残っている一番古い漢字は甲骨文字。亀の甲羅や動物の骨に刻まれた漢字です。これは古い結果を記録するために使われました。私たちが日頃使っている漢字にどんな意味があるのか、違った角度から見直してみると漢字の面白さ、楽しさが見えてきます。今回、注目する漢字は、「豕・豚・家」。今年の干支は財運の象徴である「豚」です。豚に関する漢字を吟味し、豚に関連する古代人の風俗習慣を紹介します。また象形文字の「豚」を墨書し、吉運を招きましょう。

日時 2月12日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 800円 ビジター 1,300円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名



冬の星見と星の色

講師 毛利 勝廣 名古屋科学館主任学芸員・学術博士

冬の星空には、冬の三角やオリオン座、すばる星などの見所がたくさんあります。晴れたらレーザーで冬の星座をたどったり、望遠鏡で星々をご覧いただきたいと思ひます。夜空には赤っぽい星、黄色っぽい星、青っぽい星はあります。しかし緑色に見える星はないと言われてます。星の光は様々な波長の光が合わさっています。そしてその光の源は・・・。冬の星々を題材に星の光と色のしくみをお話します。(冬は星見に最適ですが、寒いので暖かい服装でお越しください)

日時 2月13日(水) 18:30～20:30 参加費 会員 1,100円 ビジター 1,600円(和菓子・お茶付き)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名 ※お菓子は講座に合わせて作っていただく五十鈴茶屋の特製菓子です

戦国貴族の生き残り戦略①

講師 岡野 友彦 皇學館大学文学部長

永らく続けてきた『伊勢参宮名所図会』に変わる連続講座として、國學院大學図書館所蔵「久我家文書」に含まれる戦国時代の古文書を読み解くことで、戦国時代を生き抜いた公家貴族たちの苦悩と「したたかさ」についてお話していこうと思ひます。第1回は康正2年(1456)の「久我通尚自筆書状」を読みながら、応仁の乱前夜の京都の情勢と、公家貴族の困窮ぶりを見ていきます。なお参考文献として、岡野先生著「戦国貴族の生き残り戦略」をぜひともお買い求めいただければ幸いです。講座当日にも販売させていただきます。(吉川弘文館、2015年、1700円+税)

中世の古文書を読めるようになりたいと思ひている方、大歓迎!!

日時 2月18日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 800円 ビジター 1,300円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

遷宮上人慶光院の話

講師 山中 一孝 豆腐庵山中代表取締役

五十鈴塾から神宮の方向に向かうと右側に白壁が続く立派な門構えの建物が見えてきます。門が閉ざされていて中は見られませんが、由緒ありげな高い屋根、大きな土蔵など一体何なのか、誰がお住まいなのか興味は尽きません。実はこれは江戸時代、慶光院という尼寺だったのです。それもとて格式の高いお寺で朝廷から紫の衣を着ることを許され、慶光院の縮旨を賜っています。それはこのお寺の尼僧が神宮が荒廃し、遷宮もままならなかった時代に、力を尽くして遷宮を復活させた功績によるものです。それも初代だけではなく何代にもわたって尽力してきたのです。私は禁忌とされた神宮の御遷宮になぜ尼僧が関係できたのでしょうか？ 偉大なる女性の力を山中先生にじっくりと語っていただきます。

日時 2月27日(水) 18:30～20:00 参加費 会員 800円 ビジター 1,300円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 30名

楽しい俳句

講師 石井 いさお 俳人協会三重県支部長・煌星俳句会主宰

わずか17文字にいろんなことを詠みこむ俳句。筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。難しいことをいえば貴族社会で楽しまれていた連歌から始まり、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。これを生み出したのが日本人であることは世界に誇るべきことです。日本語のリズムは知らず知らず5・7・5になっているといわれます。つまり誰もが俳句を作る下地は持っているのです。いまや世界の人々々が作る俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生が俳句や作すノウハウを教えてください。

期日 12月26日(水)・1月23日(水)・2月27日(水) 時間 各回10:00～12:30 定員 30名
参加費 各回 会員 1,500円 ビジター 2,000円(資料代含む)